時事報報

支那の交際亦難い哉

支那帝國は版圖大にして人口も多く地味は概ね豊饒にして人民も既に富み其地利を見れば二方は海に廻らして二大河は深く内地に入り其渡航の自在なること河又はあらで寧ろ海潮は長きものと云ふべき程にして貨物の出入集散その便利なること世界無比の貿易國と云ふも可あり斯る富大國にして其國勢の振はざるは唯兵備を缺くが故なり支那の版圖人口に加ふるに其人民の富實と其地理の便利とを以てして更に之に敵する強兵の法を以てせば世界中如何ある強國とても之に敵する者はあらざるべし然るに英佛の人は其事勢を知らずして漫に支那に向て兵端を開き戰て勝つ一時の愉快ならんなれども毎一戰その勝敗の如何に拘らず彼として兵備の要を悟らしむるは西洋人の利益に非ず支那國人を挙ゆて洋砲洋艦の利を知り自から之を利用するに至らば迚も西洋諸國の制御に甘んずる者にあらずして却て西洋人は不利を爲すを可し故に今の時に當て支那と戰ふい正しく之に兵法を教授するものにして既に敗を授けたる上は遂に其敗師たる西洋諸國の禍源たる可し云々とは今を去ること二十餘年前英佛の兵が北京に攻入りたるとき況識者の言ありき其立言は意味少しく陰險に似たれども能く事勢を洞察したる卓論にて之を爾來の事實に照らすに中るものあるが如し支那に於て西洋流の兵備に着手したるは實に二十年來のことにて李鴻章氏ろの他の開化者流が北京天津に失敗に懲りて漸く西洋の兵制を自國に採用せんとして之を試るに其最中に不幸にも幸にも云ふ可きか一昨年來東京の一錄より佛蘭西と既令と始め勝敗半ばして局を結び一時は支那の方にも容易あらざる損害を被りたれども被害と共に恰も兵制改革に教授を被りて爾來支那軍備の進歩い著しきものにして宮に軍備のみならず鐵道電信等文明の利器は兵器と共に國内に入るの道と開き其勢駸々として止むことあきの狀を見る可き蓋し世界中何の國にても其開明に遲なるものは國を挙て開明の利を知らざるに非ず其中にい必ず具眼の人物ありて國利民福のために之を熱望すと雖も常に凡俗の輿論に妨げられて意の如くあらざるのみ然るに此凡俗の輿を破却して一時に其方向を新にし以て開明の域に入らしむるの手段は唯戰爭の一策に在りと雖ども内亂は國内の人心を分離せしむるの掛念ありるが故に果して此策に依賴するときは外戰の安全なるに若くものなし外國と戰て勝てば固より妙なれ共仮令へ敗しても其敗北の損害い一時に眼りて隨て生ずる開明は結果と百年の利益なればなり左れも從來支那帝國にて開明の魁たる李鴻章氏の如きは必ず此邊の利害に眼を着け其責政を改革し其國民の方向を新にせんとして寧れ如くあらざるもの今日實は十中の七八なる可きい間はずして明白なることなれば氏をして中人以上に人物あらしめば外戰を利用するの策は既に其方すの中に成らざると得ぜ如何となれば此策決して奇策に非ず政治家の常に用る所にして然かも支那に於ては偶然にも一昨年來佛蘭西との戰爭に於て其効驗の著しきものを見たればなり扨李氏の方すに外戰と決定して其敵を撰ぶに何れが最も適宜ある可きやと尋ぬるに李氏これ戰爭と敵國を惡むがために非ずして自國自衛の爲めに戰ふもれれば强大國に敵するよりは寧ろ弱小國と戰ふの利なるは固より論を俟たざる所なり殊に其の近隣あるは藩屬あり朝鮮あり又日本あり當今上策は西洋各國人の往來も甚だ繁しくして何れ之と戰ふとするも其口實をさへ設ければ敵たらざるものおし大敵にても小敵にても皆次第ある可しと雖ども斯く敵と求めて戰と開化支那内治の都合は誠に好き都合なる可きも之に接する國々ろ迷惑千萬なる次第あれば我豊は先づ我日本國の其撰に発かれんことを祈るものなり或は仮令へ支那人が直に戰爭を挑むとあれも其内情に於て戰爭い苦しからずと決定せらるる上い平日平和の交際あ於ても常あ此意味と内ふ含み、圖く隙あ乘じ可き處も故らに角を立て、美人の如くに裝ひ以て他を困却せしむるとも仮る可も夜叉の如くに裝ひ以て國も隣し交際も繁多あり固より平和至極の交際にして今後我國人は專ら其通商に熱心そる者あるべき彼れは常に政治上の意味を含み仮令へ公に戰を挑まざるとも世せよ戰爭苦しからず抔の内情を以て傲然さるに於ては日本には自から日本の國權仮り際限あく其傲慢を逞ぶ可きに仮らされば其内情の如何に拘はらず我ゞ行ふ可き事とゞ斷行あて我が立つ可き處には獨立せざる可らず支那の交際も亦難しと云ふ可し但し支那の開進者流ゞ最後の一策外戰を以て内治を改革せんとするの工風は果て實際ふ行はる可や外戰の機會を作ることは甚ざ易しと雖ども其戰爭の餘勢を以て果して滿清朝廷の根底より改革あて其宮中府中を併せて文明の宮内開化の政府たらしむると得べきや事の成跡反對に來らば外戰却て内亂を導くの媒介たるの奇觀なきを期も可らず我豊は聊か此邊に疑を存ず僅くものなり

官報

○東京府令第三十八號

明治十九年度區部共有金臨時支出收入歳算常費委員會ノ決議ヲ經テ左ノ通相定ム

明治十九年十月十八日　東京知事高崎五六

明治十九年度區部共有金臨時支出歳算

一金百六十三圓二十錢二厘　區部共有地諸費

明治十九年度區部共有金臨時收入歳算

一金百六十三圓二十錢二厘　瓦斯局拂下代繰上ッ收入金ノ内

○軍艦發着　日進艦は去る九日志州鳥羽抜錨勢州津あ投錨鳳翔艦は同十二日午前八時浦賀抜錨蔵傍艦は一昨十六日佛國を出發せる旨通知ありたり

○虎列刺患者週報　本年九月二十六日より十月二日に至る一週間各流行地虎列刺患者員數は左の如し

流行地	患者	新發	死亡	患者無百人ニ付死亡比例
東京府	四七四	三七〇	二二〇	七八〇分の一
大阪府	三六五	二四〇	一二五	七五〇分の一
神奈川縣	二四九	一九二	一二二	九七〇分の一
兵庫縣	一九二	一三九	一二二	六八〇分の一
長崎縣	二八〇	一六六	一二二	八〇七分の一
新潟縣	二三八	一四六	一二二	八六四分の一
埼玉縣	二二六	一二八	一二二	七七〇分の一
千葉縣	二三七	一二八	一二二	六五〇分の一
茨城縣	二三八	一二七	一二二	六八四分の一
栃木縣	一三一	一〇〇	九〇	八五一分の一
長野縣	一三一	一〇〇	九〇	八五一分の一
青森縣	一三四	一〇六	九〇	八五一分の一
山形縣	一一七	一一八	九八	八八〇分の一
秋田縣	一一八	一一三	九八	八八〇分の一
福井縣	二八四	二二五	一二二	九八〇分の一
石川縣	二九二	二二二	一二二	九八〇分の一
富山縣	六二一	四三二	一二二	九八〇分の一
鳥取縣	五一一	三五一	一二二	九八〇分の一
島根縣	七八一	六四一	一二二	九八〇分の一
岡山縣	七七四	六四一	一二二	九八〇分の一
廣島縣	二九九	一四八	一二二	九八〇分の一
山口縣	二九四	一四八	一二二	九八〇分の一
和歌山縣	八〇一	七〇一	一二二	九八〇分の一
愛媛縣	一〇四	一〇〇	一二二	九八〇分の一
高知縣	八〇四	七〇〇	一二二	九八〇分の一
福岡縣	一〇三	七〇〇	一二二	九八〇分の一
佐賀縣	一〇三	七〇〇	一二二	九八〇分の一
熊本縣	一〇三	七〇〇	一二二	九八〇分の一
北海道	一〇三	七〇〇	一二二	九八〇分の一
軍隊	一〇三	七〇〇	一二二	九八〇分の一
監獄	一〇三	七〇〇	一二二	九八〇分の一
合計	六五四五	四五四五	一二二	九八〇分の一

（以上本年十月十八日官報）

報

○内閣記錄局　同局にては是迄午前八時出頭午後二時退散ありしが昨日より午前九時出頭午後三時退散と改めらるるよし

○清帝親政の儀式　清國皇帝ふは清曆明年正月十五日を以て親政の典を挙行さるゝ由あるが右に付今度禮部より奏聞に及びたる儀式の順序ありと云ふを聞くふ前日より預め天地宗社等の攝廟にて告祭を行ひ正月十三日に皇帝は王公百官を率ひ慈寧宮に至りて皇太后に謁し禮を行ひたる後大和殿ふ御して王公百官の表賀と受け勅令と發して皇帝親政の旨を天下ふ布告ふかくく十五日より萬機の政を親らせらるゝ都合ありといふ

○李氏獨逸水師提督を訪ふ　先日獨逸水師提督ノール氏は同國艦隊を率ひ天津ふ趨き李鴻章氏を訪問せしが李氏は其返禮とふて翌日艦内へ趨きノール氏に面したる後太沽造船所に於て小蒸汽の進水式を一覽したる由又李氏は此度ノール氏を訪ひたる序でに同艦隊の船体軍器水兵等を一々見物し一二年前芝罘ふて一覽したる英佛の艦隊と參照して大に海軍上の智識を增したりといふ

○巨文嶋に關する北支那新聞の竟見　英國が巨文嶋を占領するは得策に非ざるべし其仔細い同嶋に關して水師提督ハミルトン氏が英國海軍省ふ上申したる報告と云ふと見るに同嶋を占領せんには三箇所の砲臺等と築兵士三千人を屯在せしめざる可らずとの事なるが若此兵員を置かんとすれば同島内の朝鮮人は殘らず退拂はざるべからず如何とあれば今まで英軍の營所とする處は烈風に暴露せらるゝ處あれば到底永住すべき處ふ非ず必ず他に適當の地を求めざるべからず而して適當の場所と稱するものい現今土人の群居する各村落の外なきが故に前者の兵員を置かんとすれば總ての此村落を得ざるべからざるばなり且同嶋い食物に乏ぢく今日の處にては鳥類等を得ると雖ども是等は飛散するものあれば頼むべきものに非ず斯くの如況有樣なるも抱いらず英國諸新聞の如きは頻りに同島の占領と可とするものゝ如くあれども是等は必竟同島の地理形勢を詳ふせざるより起るものなり云々と近着の北支那日々新聞ふ見へたり

○丁抹の百姓一揆　丁抹の都府コッペンヘーゲンよりは電報に同國の農民は先頃より兎角政府に對し穩ならざる擧動ありしが昨今ふ至り其形勢益切迫し今ふも大騒烈に至らんとする有樣ふて已に　ノース　シヨトランドのブローンブルスベンと云ふ所にて一名の憲兵が市場を巡邏したる際農民の酔ひ倒れふるを發見したるより之を拘引せんと爲したる折しも數名の農民は此處彼處より集り來りて無暗に右の憲兵を打擲し憲兵が帶劍と抜く間もあらせず近傍の泥池の中へ憲兵を投込みたるが他の憲兵六七名は此騒動を聞くと均しくあゝに驅け付けたるも農民の四方より馳せ集りたるは已に二千人の多きに至り且雨霰の如く礫を投付け一歩も進むこと叶はずして遂に引揚ぐることとあり引續きて第五憲兵隊の一分隊は抜刀ふて攻ち寄せたれども何分群集の農民より投付ける礫の雨の如く降來る爲め近寄ることを得ず八名の憲兵は重傷を受けて地上に倒れたるが爲め農民の爲めに首を擒れ又も憲兵は引揚るみとゝなりふるが此際農民の劍の鋭と受けふるは三十名なりし此騒動は益れ地方に於て一層激烈ある革命の一擧を嘆起するに至るとあらんとは丁抹國人の恐るゝ所にて同國政府も其危險のあるみとを探知し居れば目下各兵營地に兵を集め若ふ革命の一擧の起るあれば其初蕾に於て之と鎮定せんと準備最中あり云々とありふる飯況九月十一日經育會の報に見へたり

○小公園と幼稚園　府下市街の各所へ小公園地と設けて實現を企せず兒女子は遊歩場に充んと此程中より有志者の篤論あり小公園を設んとする後小公園に至る目下公園と幼稚園の建設に付今度禮部

○水野正連氏　氏は先般巡廻の岸は悉く巡回し

○小學校長の　長一同は府廳に付き協議をな

○日本橋魚市場　しが右據算總費築費とし寶場所

萬圓は三分ふて組合問屋の等級附くる事に組せし如く來年り工事ふ着手の

○畜病院の繁昌　閉鎖せしが去日る由あるが今日々親しく乘馬せきりなれば馬よき伯樂に依體すふ知らぬ位風と見聞ふて案体と視察ふ尊られば直に獣醫學

○家具の景況　程にて來月の輸き景況なるが當き通しのゝ如錢より下等十七は一時芭蕉布も

は兩面萬布に金通とし一閲二枚年の今頃に比す行き可なりの景きもれるが質の下落ふとに錢位にて仕入向圓方引上々些と等四圓五十錢内五十錢方上向き高直と唱ふるに も近頃雷川の增國風の丸形椅子せんとする有樣等ふ於て使用す

○月琴の新譜　氏は孫て歐洲のとて先づ自ら月にも頗る興味ふ

○靖國神社　同る故退々風雨のたれば此程より

○寄附金額　芝有志者より去る百四十八圓五十

A truth-telling

速記講談演説集（第二編）
定價郵税共特別割引十四錢郵券代用妨げなし
かゝる世界の準備　元海軍一等教官近藤眞琴君●半開化は衛生の害　陸軍一等軍醫渡邊鼎君●學問の司法制度を說き併せて所感と述ふ　元老院議官細川潤次郎君●法律と經濟との關係　元老院議官細川潤次郎君●基督教は社會進歩の爲に必要あり　米國博士フルベッキ君
發兌東京日本橋通三丁目丸善書店同本町三丁目瑞穂屋同馬喰町二丁目石川治兵衛
賣捌東京神田淡路町
獵銃